

第58回 小学校学校行事研究全国大会 東京大会 実施計画

1 大会主題

多様な他者と協働して 楽しく豊かな学校生活をつくる  
 これからの学校行事の創造  
 ～ウェルビーイングの深化を目指して～

2 開催日 令和6年8月6日(火)、7日(水)

3 会場 羽田イノベーションシティ コングレスクエア羽田  
 大田区羽田空港一丁目1番4号  
 羽田イノベーションシティ ゾーンJ

4 当日の時程

第1日 8月6日(火)

受付	全国理事会 運営委員会	受付	総会 開会式	基調提案	アトラクション	記念講演	分科会打合 移動 休憩	レセプション
----	----------------	----	-----------	------	---------	------	-------------------	--------

9:30 10:00 12:00 13:00 14:00 14:30 16:00 17:00 19:00

第2日 8月7日(水)

会場準備	受付	分科会1 提案 協議 講評	休憩	分科会2 提案 協議 講評	事務連絡 解散
------	----	------------------------	----	------------------------	------------

8:00 8:30 9:00 10:10 10:20 11:30 12:00

5 主題設定の理由

令和3年1月に中央教育審議会答申として示された「令和の日本型学校教育」の在り方として、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた今日、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようその資質・能力を育成することが求められている。その目指す姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」が掲げられており、特に「協働的な学び」については、「同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他の学校の子供との学び合いなども含むものである。知・徳・体を一体で育む『日本型学校教育』のよさを生かし、学校行事

や児童会（生徒会）活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実することで、子供が自らのこれまでの成長を振り返り、将来への展望を培うとともに、自己肯定感を育むなどの取組も大切である。」とあり、学校行事、特別活動の重要性が明記されている。

特別活動は、3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に基づいて目標の達成を目指しており、「令和の日本型学校教育」の中核ともいえるべき役割を担っているが、その中で学校行事は、全校や学年などの大きな集団の中で、多様な他者と協働し、合意形成を図りながら協力して取り組むことを通して、集団への所属感や連帯感を高め、よりよい生活を作ろうとする態度や自他の尊厳を重んじる態度などを養う大切な活動である。

これらの背景を踏まえ、学校行事ならではの仲間体験、本物体験、感動体験を通して、子供たちが自主的、実践的に取り組み、集団の中での役割を果たしながら協働することで、楽しく、豊かな生活を自らの力でつくり上げる達成感、満足感を味わうこと、その過程において、子供たちと、その成長を支える全ての人たちのウェルビーイングの深化が図られることを目指し、本研究主題を設定した。

## 6 研究の視点

大会主題に迫るために、次の視点に基づいて研究を進める。

- (1) 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」につながる学校行事の在り方を追究する。
- (2) 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせることにつながる学校行事の在り方を追究する。
- (3) 様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することにつながる学校行事の在り方を追究する。
- (4) 全校又は学年という大きな集団を単位として活動するという特質を生かし、集団への所属感や連帯感を深めること、公共の精神を養うことなどにつながる学校行事の在り方を追究する。
- (5) ウェルビーイングの観点から、学校行事における諸活動の意義を検証する。
- (6) 学校行事がカリキュラム・マネジメントの核となることを意識し、各教科等との関連も踏まえた全体計画の在り方を検討する。

## 7 記念講演講師

國學院大學人間開発学部 教授 杉田 洋 様